

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11012820 A**

(43) Date of publication of application: **19.01.99**

(51) Int. Cl.

A41D 19/00

(21) Application number: **09164121**

(71) Applicant: **KATSUBOSHI SANGYO KK**

(22) Date of filing: **20.06.97**

(72) Inventor: **ADACHI RYUKICHI**

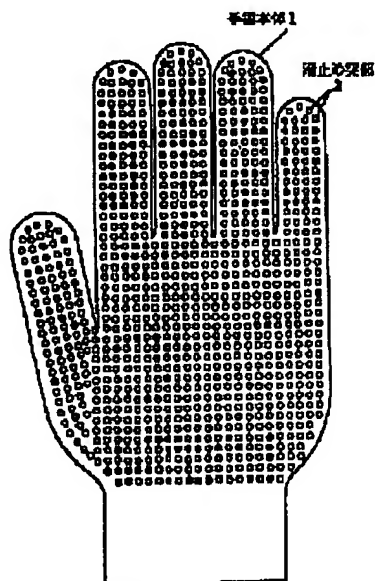
(54) **GLOVE FOR WORK**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a glove used for works and capable of exhibiting an antislipping effect and an antimicrobial effect over a long period.

SOLUTION: This glove used for works is obtained by scatteringly disposing antislipping projections 2 containing an antimicrobial agent on the outer surface of a glove main body 1 produced by knitting or weaving fibers.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-12820

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月19日

(51) Int.Cl.⁸

A 4 1 D 19/00

識別記号

F I

A 4 1 D 19/00

E

A

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-164121

(22) 出願日 平成9年(1997) 6月20日

(71) 出願人 391013036

勝星産業株式会社

富山県東礪波郡井波町井波201

(72) 発明者 安達 隆吉

富山県東礪波郡井波町井波201 勝星産業
株式会社内

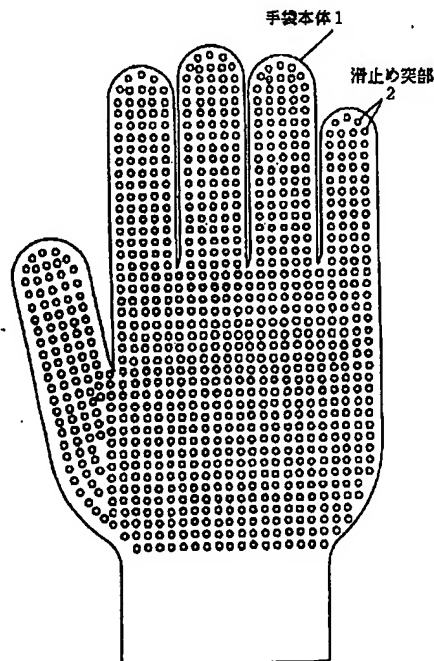
(74) 代理人 弁理士 宮田 信道

(54) 【発明の名称】 作業用手袋

(57) 【要約】

【課題】 滑止め効果と抗菌効果とを長期間に亘って発揮することのできる作業用手袋を提供することである。

【解決手段】 本発明の作業用手袋は、繊維を編織りした手袋本体1の外面に抗菌剤3を含有する滑止め突部2を散在してあることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 繊維を編織りした手袋本体(1)の外面に抗菌剤(3)を含有する滑止め突部(2)を散在してあることを特徴とする作業用手袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は抗菌効果を備えた作業用手袋に関する。

【0002】

【従来の技術】この種の作業用手袋としては、手袋本体を抗菌剤溶液中に浸漬したものや、抗菌剤を練り込んだ繊維を編織りして手袋本体を形成したものが知られている。ただし、これら作業用手袋は抗菌効果を備えているが、滑止め手段を有しない構造なので、滑りやすいものを取り扱うには適さなかった。そこで抗菌効果と滑止め効果を兼ね備えた作業用手袋の開発が望まれている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで滑止め手段を有する作業用手袋としては、手袋本体に滑止め突部を多数散在したものが一般的に知られている。これに前記した作業用手袋の製作方法を利用すれば、両効果を兼ねた製品ができると想定される。しかし、抗菌剤を練り込んだ繊維からなる手袋本体に滑止め突部を設けた作業用手袋の場合、物に最も触れ易い箇所である突部には通常、塩化ビニル樹脂や、合成ゴムなどが用いられており、これら素材には抗菌効果がないので、何等かの原因によって突部に菌が付着すれば、突部面上で菌が成長、或いは増殖し、この状態で衛生的な物に触れると、増殖した菌が付着して物が不衛生になるという恐れがあった。また、滑止め突部を設けた手袋本体を抗菌剤溶液中に浸漬して製作した作業用手袋の場合、突部が物に触れると、突部の表面上に単に付着しただけの抗菌剤は、その摩擦によって剥がれ落ち易く、効果の持続という点で問題があった。

【0004】本発明は上記実情に鑑みて成されたものであり、その目的とするところは、滑止め効果と抗菌効果とを長期間に亘って発揮することのできる作業用手袋を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の作業用手袋は、抗菌剤を含有する滑止め突部を、繊維を編織りした手袋本体の外面に散在したものである。ここで言う「含有」とは、滑止め突部中に抗菌剤が分散して存在している状態をいう。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の作業用手袋は図1～図3に示すように、軍手等の手袋本体1の外面に滑止め突部2を散在し、各滑止め突部2が抗菌剤3を含有していることを特徴とする。

【0007】滑止め突部2は、抗菌剤3を軟質塩化ビニル樹脂に混合して、さらに可塑剤、発泡剤を混入して液状ペーストゾルとし、それをスクリーン印刷により手袋本体1の所定箇所に塗布し、低融点熱可塑性合成樹脂の軟化点以上の温度で加熱乾燥して手袋本体1の繊維に絡むように付着させ、冷却に伴うゲル化により固着して形成する。

【0008】抗菌剤3には無機系の素材を使用して、人体に悪影響を及ぼさないようにすることが望ましい。抗菌剤3の具体例としては、商品名「イオンビュア」(石塚硝子株式会社販売)を挙げることができる。これは比較的、化学的耐久性の弱いガラス組成(アモルファス構造のガラス)と、抗菌性能を有するイオン化した金属(例えば銀や銅等)とを組み合わせたガラスである。なお、ガラスには、金属をイオン状態で安定的に保持できる性質があり、この性質と、化学的耐久性の弱いガラス組成とを利用することによって、抗菌効果を長期間に亘って発揮できるようになる。

【0009】また、手袋本体1は繊維を編織りして製作したもので、繊維には綿糸や、綿糸と化学繊維との混紡糸、或いは素材の異なる化学繊維の混紡糸、或いは抗菌剤3を練り込んだ化学繊維からなる混紡糸等を使用する。なお、化学繊維としては、たとえばナイロン、ポリプロピレン複合糸、ポリエステル、アクリル、レーヨン等がある。

【0010】

【発明の効果】本発明の作業用手袋は、手袋本体の外面に散在する滑止め突部に抗菌剤を含有してあるので、物に触れても抗菌剤は剥離せず、その結果、滑止め効果と抗菌効果を長期間に亘って持続することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の作業用手袋を示す平面図である。

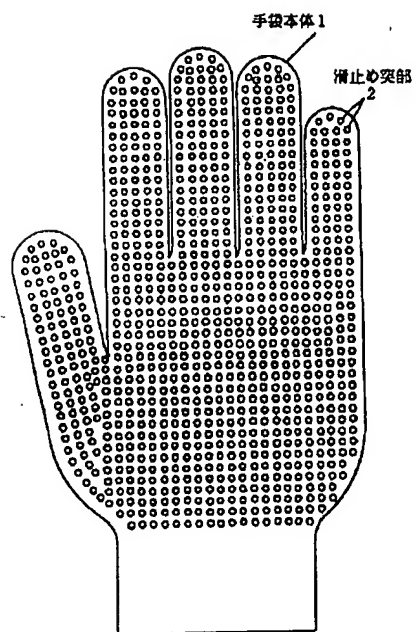
【図2】図1の一部拡大縦断面図である。

【図3】滑止め突部中に抗菌剤を含有している状態を示す要部斜視図である。

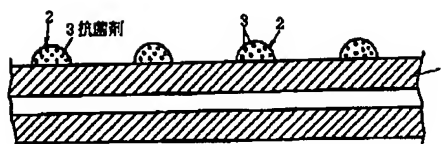
【符号の説明】

- 1 手袋本体
- 2 滑止め突部
- 3 抗菌剤

【図1】



【図2】



【図3】

